

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第3回武蔵村山市農業振興計画策定検討委員会
開 催 日 時	平成29年2月24日（金）午後3時00分から5時00分
開 催 場 所	さくらホール会議室
出席者及び欠席者	<p>出席委員：北 沢 俊 春 東京都農業会議事務局長（委員長）  今 安 典 子 東京都農業振興事務所農務課課長代理  高 橋 誠 武蔵村山市商工会事務局長  山 田 和 男 武蔵村山市農業生産組合組合長  乙 幡 雄 司 武蔵村山市農友会会長  荒 幡 善 政 認定農業者  下 田 智 道 認定農業者  鈴 木 寿 子 武蔵村山市消費者団体連絡会  高 梨 和 人 公募市民  永 村 清 市 公募市民  細 野 敏 彦 公募市民</p> <p>事 務 局：協働推進部長 比留間 毅 浩  協働推進部産業観光課長 児 玉 眞 一  協働推進部産業観光課主査 井 上 ひとえ  協働推進部産業観光課主事 石 川 彰 彦</p> <p>欠席委員：高 山 充 則 武蔵村山市農業委員会会長（副委員長）  小 暮 保 東京みどり農業協同組合村山支店支店長  高 下 慎 吾 ダイエー武蔵村山店副支店長</p>
議 題 等	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 武蔵村山市第三次農業振興計画策定にかかる市民及び農業者アンケート調査報告書（案）について</p> <p>(2) 武蔵村山市第三次農業振興計画策定にかかる基礎調査（中間報告）について</p> <p>(3) 武蔵村山市第二次農業振興計画の点検・評価について</p> <p>(4) その他</p> <p>3 閉会</p>
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	<p>(1) 武蔵村山市第三次農業振興計画策定にかかる市民及び農業者アンケート調査報告書（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見等があれば、3月15日までに事務局に報告し、修正は委員長、副委員長に一任する。</li> </ul> <p>(2) 武蔵村山市第三次農業振興計画策定にかかる基礎調査（中間報告）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に取り組んでいる施策があるので、再確認する。</li> </ul>

	<p>(3) 武蔵村山市第二次農業振興計画の点検・評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第三次計画を策定する基礎資料として活用する。</li> </ul> <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の会議は、4月10日ころを予定する。</li> </ul>
<p>審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)</p>	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 武蔵村山市第三次農業振興計画策定にかかる市民及び農業者アンケート調査報告書(案)について</p> <p>(事務局) 資料2 武蔵村山市第三次農業振興計画策定にかかる市民及び農業者アンケート調査報告書(案)について説明</p> <p>—質疑・意見等—</p> <p>(委員) アンケート調査の結果を割合で出しているが、前回調査と回答数が違っていても問題はないか。</p> <p>(委員長) 比率でみることで良いと思う。</p> <p>消費者がスーパーでの販売を求めているのは、八百屋さんが減ってきており、武蔵村山市の新鮮野菜を求めているということか。</p> <p>(事務局) 野菜等の購入するときの基準では、国内産を選ぶ方が増えていることから市内産の新鮮な農産物を求めている方が増えてきていると考えられる。また、学校給食についてのアンケートでも今以上に市内産の野菜の提供を求めている結果も出ている。</p> <p>(委員) 話は変わりますが、きれいに耕している農地でも空き缶は捨てられるか。</p> <p>(委員) 街道沿いはどこでも空き缶が捨てられている。きちんと耕作している農地でも、夜、外灯がないと缶が捨てられることがある。</p> <p>(委員) そのまま放置しておくとともにさらに捨てられるので、農家は空き缶などを持ち帰るようにしているが、それでもま捨てられることがある。</p> <p>(委員) 植木を植えている畑は、頻繁には見に来ないので、不法投棄が多い。</p> <p>(委員) 高校生が自転車から空き缶を捨てるのをたまにみかける。</p> <p>(委員) 農地にタイヤを18本捨てられたことがある。</p> <p>(委員) ビンも捨てられることがあり、割れて農作業に支障が出ないよう、作業前に見回らなければならない状態になっている。</p> <p>(委員) マスクが捨てられることもあり、病原菌があるのではないかとすると気持ちが悪いです。</p> <p>(委員) 鳥害では、ムクドリ、ヒヨドリなどにブロッコリーの葉を食べられてしまい、商品性が落ちるので困る。</p> <p>(委員長) アンケート回答の中で後継者に、農業を継がせないという回答が多い</p>

ようだが。

(委員) そもそも後継者がいない農家が増え、後継者が残っている農家自体が少なくなっている。

(事務局) アンケートについては、3月末までに冊子として取りまとめるので、3月15日までに意見をいただきたい。最終確認は、委員長と副委員長に一任をいただきたい。

(了解の声)

(2) 武蔵村山市第三次農業振興計画策定にかかる基礎調査(中間報告)について  
(事務局) 資料3 武蔵村山市第三次農業振興計画策定にかかる基礎調査(中間報告)について説明

－質疑・意見等－

(委員) 市が行っている事業で入っていないものがあるので入れていただきたい。パワーアップ事業が効果も出ているので入れてはいかがか。

エコ農産物以前に、エコファーマー制度があり、武蔵村山市はエコファーマーが多かったので、入れてはいかがか。

新規就農については、実際に就農した方がおり、認定農業者にもなっているので実施した内容でいいのではないか。

(事務局) 修正いたします。

(委員) 武蔵村山市では人・農地プランを作成していないようだが。

(事務局) 第三次計画では位置づけていきたい。

(委員長) 生産履歴への取組状況はD評価であるが、各農家が行っているということであれば、既に実施しているという評価で良いのではないか。

(委員) スーパーのイオンに農産物を受け入れてもらおうとしたところ、生産履歴を公的な機関で認知しないと受け入れられない、ということであった。

(委員長) 話は変わりますが、パソコン講習会を行っているのであれば、A評価でも良いと思う。

(事務局) パソコンの普及促進ということなので、実施しているか把握ができないこともあってD評価とした。

(委員長) 農業委員会が行っている事業もあるので、D評価とまでしなくてよいと思う。

(委員) 武蔵村山市の取組については、写真を入れるなどして、何をやったのか具体的に書いてほしい。

(委員) 第三次計画の全体像が欲しい。

(事務局) 第三次計画の基礎となる資料として提示させていただいており、このまま第三次計画になるわけではない。

細かい形態は変わる可能性があるが、基本はこの内容を想定している。  
(委員長) 来年度、施策の内容について検討を行う予定である。基礎調査は現状を把握するためのものであり、今後検討する計画の構成とは異なる可能性がある。

40 ページ、農業担い手の確保で後継者団体の方への支援についての記述の入替えをしたらどうか。

(事務局) 訂正します。

(3) 武蔵村山市第二次農業振興計画の点検・評価について

(事務局) 資料 3 武蔵村山市第二次農業振興計画の点検・評価について説明

—質疑・意見等—

(委員長) 評価の「見直し」の解釈について。

(事務局) 統合も見直しに含めて考えることとしている。

(委員) 19 ページの 67 のロゴマークの使用促進について、約 20 年前にブランド化推進事業を行い、ロゴマークを作っている。JA が売っている結束テープにはロゴマークが今も使われている。

(委員) 廃止としている施策は第三次には掲載されないこととなる。課題の整理が後ろ向きではないか。こうしていきたいという評価になっておらず、今何もしてないからやめるとなっているのではないか。

武蔵村山で農業を進めていけるように、前向きに課題を整理しなおして欲しい。

(委員) 新規就農者は最初から機械があるわけではないので、機械の共同使用はあるほうがよい。

(委員) 瑞穂町の新規就農の方は、機械の共同利用をしている。市は出来ないから廃止する、ということではよくないので、JA、農家などの役割分担を明確にして共同化を進めていく必要があると思う。

(委員長) 役割分担を明確にすることも大切であり、たとえば農業会議をこういう役割を担うべき、というように課題を整理して推進するという観点からみてはいかがか。

(委員) 農業振興計画がどうあるべきか、明るい方向を目指したものにしてほしい。また、高齢者が多く、機械の使用ができないところはあるが、それを農友会ができるかというところも難しい。市の環境課、土木課で、1 台購入して、職員も増やしていただき、きれいにしていくことはできないか。

(委員) 北海道では、畑を減らしていない。後継者不足はあるが、集落営農でしっかりやっているからであり、武蔵村山でもやれない理由を探すよりは、どうすればできるかを、前向きに考えていくべきである。

(委員) 産業観光課は、農業が専門ではなく、かなり広い間口でやっている。施

策や事業は、優先順位を絞って進めるべきではないか。

(委員) 有害鳥獣では、ノラネコが棲みついて子どもを産み、畑が荒らされているので避妊手術などできないか。

(委員) ここで議論していることが、実を結んでほしい。ある自治体では、農業移住した方に300万円支給するなどしている。農作業の指導つきで支援し、農家としての独立を支えており、農業を行う土台も支援している。

(委員) 東京都の農業振興でも課題となっており、認定農業者よりも新規就農者への補助を厚くしている。市も裏付けがあって書いている部分と、こうあるべきという姿を書いている部分とがあるので、すべて予算化されてから書くというのは難しい。計画に書いてないと予算要求できないという部分もあるので、10年後の農業の姿を話しあったうえで、そこにお金を載せていくこととなる。

(委員長) 優先順位、重点事業をこれから検討していく。誰がやるのかを含めて。

(委員) 計画の結果を見てみると、50代以下の後継者が増えていない。一番重要な箇所を厚くして、予算もかけていくことが大切である。今は、10年間やっただけの評価であり、お金ではない解決方法の考え方も必要だと思う。

(委員) 問題がいろいろあるが、出来るだけおいしい野菜を生産していただきたい。

(委員) 一次計画のときは、農家経営の合理化などで農家が何時間働くかなどを検討した。そういう検討も必要だと思う。

(委員長) このように意見交換していくことはいいことだと思う。優先順位を考えながら検討していきたい。農業振興基本法にも農家の努力、団体の努力が位置づけられている。

単発で見ないで、いろいろな角度から、総合的に見ていく必要がある。市民の方のニーズをみても、収穫だけしたい、自分で市民農園をやりたいなど、幅がある。

(事務局) 資料3については、始めて提示させていただいた。第二次計画の取組状況から課題を抽出し、今後の方向を示していく。

これからの10年間はこれまでの20年以上に転換期であると認識しており、重要な計画となる。第三次では、短期的、中期的、長期的に取り組んでいくものを整理し、ステップを踏んで進めていくようにしたい。

(委員長) 年度ごとに数字を入れているのは大切なことだと思う。

#### (4) その他

(事務局) 次回の会議は、4月10日ころに予定したい。

### 3 閉会

会議の公開・ 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者： <u> 0 </u> 人
	<input type="checkbox"/> 一部公開	
	<input type="checkbox"/> 非公開	
	※一部公開又は非公開とした理由 [ ]	

会議録の開示・ 非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示	
	<input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等：	）
	<input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等：	）

庶務担当課	協働推進部 産業観光課（内線：226）
-------	---------------------